

# 令和6年度組織目標

部局名	知事公室
R6年度に特に注力する事項（目標）	<p>○庁内各所属と知事との橋渡し役として、知事の思いや考えを各所属に的確に伝えるとともに、職員の声を知事に届ける。</p> <p>目標： 知事の指示だけでなく、その意図等を丁寧に伝えることにより、職員のモチベーションとともに、知事のトップマネジメントを支える。</p>
	<p>○県民の共感を得る応答性を備えた広聴・広報サイクルの実践</p> <p>目標： ●県民の声（子どもの声）をヒントに施策への反映、発信していくことにより、県政への県民等の理解、共感、参画を促進し、満足度の向上を図る。 ●多様な広報媒体の特性を活かした情報発信と、職員の広報マインドの向上により、庁内外から信頼される広報を目指す。</p>
	<p>○様々な方の声を踏まえた本県の災害対応力の向上</p> <p>目標： ●南海トラフ地震などの災害に備え、様々な立場の方の声を聞きながら、本県の災害対応力の強化を図る。 ●全庁において、平常時においても、災害の発生を念頭に置いた業務執行となるよう、県政経営会議等庁内横断的な県幹部会議を活用し、働きかけを行っていく。</p>
	<p>○ペーパーレスの推進</p> <p>目標： 協議資料、答弁資料、報道提供資料のペーパーレス化の徹底</p>

所属名	秘書課
R6年度に特に注力する事項（目標）	<p>○庁内各所属と知事との橋渡し役として、知事の思いや考えを各所属に的確に伝えるとともに、職員の声を知事に届ける。</p> <p>目標： 一人ひとりすべての職員のモチベーションアップを図りながら、事業の効果的な実施や施策の目出し等につなげる。</p>
	<p>○広い視野と部局横断、部局連携の視点を持ちながら、適時・適切な情報収集と知事・副知事への情報提供を行う。</p> <p>目標： 知事・副知事の政策判断を効果的・効率的にサポートする。</p>
	<p>○【見直し・効率化】ペーパーレスやデジタル技術の活用による事務の効率化</p> <p>目標： ●協議資料、課内協議等のペーパーレス化の徹底 ●予定表作成にかかる業務の効率化を検討</p>

所属名	広報課
R6年度に特に注力する事項（目標）	<p>○積極的な広聴活動の実践</p> <p>●「知事への手紙」「子どもから知事への手紙」を受けての施策への反映状況をHP上で見える化していくことにより、第二・第三の声を届けていただく仕組みを構築する。</p> <p>目標： ●知事自らが県民と直接対話する機会（こんにちは三日月です）の一層の機会創出（月1回）。 ●インターネットで頻繁に検索されているキーワード等を把握し、県民・世間の興味・関心を先んじて把握し関係機関・団体と共有する。</p>
	<p>○つながり、つなげ、つたえ、つづける広報による情報発信力最大化</p> <p>●取り扱える情報量が大きく、機動性も高いデジタル（WEB記事や動画配信）を積極的に活用しながら、広報課所管の広報媒体の持つ特性を活かし組み合わせた情報発信の実践</p> <p>目標： ●発信コンテンツの不断の改善・工夫を行いながら、効果的なタイミングでの発信を市町や民間企業、県民等と連携して実施 ●各部・各課の所属長らによる記者会見等の機会を創出し、記者・県民目線からの情報発信力の磨き上げを実施</p>
	<p>○びわ湖放送の自立的経営に向けた支援の実施</p> <p>目標： 2033年の姿を実現するための、2024年度から始まる三カ年計画「びわ湖放送中期経営計画」達成に向けた積極的関与</p>
	<p>○次期ホームページリニューアルに向けた着実な準備</p> <p>目標： ●リニューアル実施時期（令和8年8月を目標）を年度中に明示 ●庁内をはじめ、関係者が満足する仕様書の実現</p>
	<p>○【見直し・効率化】情報の「入」と「出」の集約に伴う効率化</p> <p>目標： 情報のインプットとアウトプットを可能な限り集約することで、重複作業等を軽減し、広聴機会や情報発信量は担保したまま、業務の効率化を図る。</p>

所属名	防災危機管理局
R6年度に特に注力する事項（目標）	<p>○全庁をあげた公助の推進</p> <p>●災害対応体制と受援体制の強化・見直しに係る検討会議において各部署が主体的に災害対応を行える体制を検討する。</p> <p>●検討会議での検討結果や国の防災基本計画の修正内容を反映し、地域防災計画や防災プランを今年度中に見直す。</p>
	<p>○多様な避難路等を想定した訓練の実施</p> <p>目標： 能登半島地震で顕在化した避難経路の途絶などの課題を踏まえた原子力防災訓練を実施し、複合災害発生時における本県の対応能力を向上する。</p>
	<p>○防災情報収集・活用の仕組みづくりの推進</p> <p>目標： 「既存システム間の連携」や「県民等を含む幅広い情報入手」などの課題を踏まえ、第3四半期に次期防災情報システムの実施設計に着手する。</p>

局内室名	危機管理室
R6年度に特に注力する事項（目標）	○防災情報収集・活用の仕組みづくりの推進 目標： 「既存システム間の連携」や「県民等を含む幅広い情報入手」などの課題を踏まえ、第3四半期に次期防災情報システムの実施設計に着手する。
	○次なる感染症発生に備えた対策の実効性向上 目標： 国の計画改定を踏まえ、有識者や市町等の意見を聞きながら、年度内に県の計画を改定し、周知徹底を図る。
	【見直し・効率化】DXを活用した業務の省力化・効率化 目標： 危機管理センターの空き状況をHP上で確認できるシステムを年度内に構築し、利便性向上と業務効率化を実現する。

局内室名	防災対策室
R6年度に特に注力する事項（目標）	○全庁をあげた公助の推進 目標： ●災害対応体制と受援体制の強化・見直しに係る検討会議において各部署が主体的に災害対応を行える体制を検討する。 ●検討会議での検討結果や国の防災基本計画の修正内容を反映し、地域防災計画や防災プランを今年度中に見直す。
	○消防団活動の多様化による共助の推進 目標： 様々な県民が消防団活動に参加できるよう、機能別消防団員制度未導入の市町に対し、研修や働きかけを通じて制度への理解を促し、制度を導入する市町を増加させる。
	○県民の取組の支援を通じた自助の推進 目標： ●県民意識調査を実施し、自助が進まない理由や事情を分析することにより、県民の取組を後押しするための方策について今年度中に具体的な取組内容をとりまとめる。 ●自助を高めるための施策の効果的な推進に向けて、様々な立場の方々の参画を得て滋賀県防災会議を活性化する。
	○【見直し・効率化】DXを活用した防災業務の機動性の向上 目標： 様々な検討課題に機動的に対応できるよう、能登半島地震での経験を生かし、WEBを活用して会議や研修会を必要なタイミングで迅速かつ効果的に開催する。

局内室名	原子力防災室
R6年度に特に注力する事項（目標）	<p>○多様な避難路等を想定した訓練の実施</p> <p>目標： 能登半島地震で顕在化した避難経路の途絶などの課題を踏まえた原子力防災訓練を実施し、複合災害発生時における本県の対応能力を向上する。</p>
	<p>○資機材の計画的な更新と維持管理</p> <p>目標： 原子力防災ネットワークシステムおよびモニタリングポストの計画的な更新を通じて、途絶しない災害対応体制を構築する。</p>
	<p>○【見直し・効率化】デジタル技術を活用した原子力防災資機材の管理</p> <p>目標： 資機材管理システムを活用した各種資機材台帳の一元化により、業務量軽減と更新誤り防止を図る。</p>